

NPO 自立支援センター ふるさとの会

2006.02.20
【第2号】



これはHTML形式
のMAILです。
オンラインで無い場合
は画像が表示され
ない可能性があります。

[HOMEPAGE](#)

[SCHEDULE](#)

[EVENTs](#)

※ふるさとの会のメールマガジンをご愛読いただき、誠にありがとうございます。
今後もふるさとの会の活動内容を定期的に情報発信させていただきたいと存じます。
ご不要の場合はお手数ですがご返信くださいますようお願いいたします。

INDEX

1.ふるさとの会新年会

- ふるさとの会 利用者さん 新年会
- 自立支援センターふるさとの会 新年会
 - 第一部 記念講演会 他施設の取り組みを中心に事例紹介
 - 第二部 懇親・交流会

2.給食センター開設

3.中越豪雪災害支援活動

4.社会サービスのあり方に関する懇談会開催のご報告

- CUCS 地域のケアシステムー包括的支援の体系

1.ふるさとの会 新年会

■ふるさとの会 利用者さん 新年会

先月1/27にふるさとの会地域生活支援センターの利用者を対象とした新年会を開催しました。今回の目玉は、昨年末にオープンした「ふるさと入谷給食センター」をイベントの会場として使用し、豪華な食事を同センターのスタッフに準備して頂いたこと。オードブル、寿司など色彩豊かなメニューがテーブルに並び、思わずヨダレが垂れてしまいました。

料理を堪能しながら、音響セットを完備したカラオケ大会を実施。当日ご参加下さったセンター物件のオーナーも自慢の喉を披露しました。そして会の締めくくりはビンゴ抽選会。景品として用意したホットカーペット、ハロゲンヒーターもこの寒い時期に好評でした。残念ながら景品がはずれた皆さんには、一足早いバレンタインのチョコレートをプレゼントしました。

今年も利用者の皆さんに少しでも楽しく充実した時間を過ごしてもらおうべく、随時イベントを開催していきます。どうぞご期待下さい。

参加者17名(すみだ11名+たいとう6名)+給食センター職員9名

(地域生活支援事業部 センターすみだ 古木大介)

■自立支援センターふるさとの会 新年会

立春も過ぎ、うらかな春を感じさせる2月11日土曜日の午後、ふるさとの会本部ビル3Fにて、ふるさとの会職員新年会を来賓の方を多数お招きして開きました。新年明けまして・・・には、少し遅かったのですが、第一部の講演会の内容や来賓の方々からの励ましなど、新しい一年を始めるにふさわしい、和やかな新年会となりました。

●第一部 記念講演会 他施設の取り組みを中心に事例紹介

講演者として、東京都福祉局生活福祉部保護課保護係施設担当係長の小日向貢さんにおいていただき、島根県出雲市にある認知症高齢者専門のデイケア施設『小山のお家』(おやまのおうち)を取り上げたテレビ番組のビデオ上映を中心に、ケアの取り組みについてお話をいただきました。そのなかで、認知症の方々の問題行動は、記憶障害に対する大きな不安によって起こると考え、この施設では『記憶障害は悪くない』『みんなで認めよう。そんなに怖がらなくていい』と、一人一人に合わせて、みんなで支えあいながら外出などを楽しみ、そのときを精一杯楽しむことを進めているとのこと。その様子に職員も涙を浮かべながら、熱心に見入っていました。また、東京都養育院での広報担当という経験から、過去の広報誌の抜粋など貴重な資料を提供いただきました。利用者さんの人生の最後までお付き合いをしていこうとしている私たちふるさとの会の施設運営のなかでよいヒントとなりました。

●第二部 懇親・交流会

来賓として、更生施設浜川荘所長 岩澤様、特別区人事・厚生事務組合 松田様 前田様、中高年事業団やまて企業組合 鈴木様 新津様、三晃オーナー辻家長女 諸橋様、特定非営利活動法人友愛会 吐師様、新宿区福祉部生活福祉課 石井様、内藤顧問税理士をはじめ、日頃ふるさとの会の事業にご支援ご協力をいただいている方々や、和洋女子大学の中島先生など学者研究者の方々など20名を越えるお客様に職員に対する励ましやふるさとの会に対する期待などお言葉をいただきました。また、都議会議員服部様、区

議会議員木下様からは、路上生活者支援に対する力強い決意をお聞かせいただきました。各事業所から35名を超える職員が出席し、先月新たに開設したふるさと給食センターの方々による心のこもった手作りの料理に大いに盛り上がり、夜のふけるのも忘れて交流を楽しみました。

(ふるさとの会事務局)

2.ふるさと入谷給食センター開設！

ふるさとの会では、昨年12月22日に給食センターを開設いたしました。ふるさとホテル三晃の立ち上げに伴い、ふるさとの会が運営する宿泊所および自立援助ホームでの配食を効率よく行い、また利用者さんの生活の質の向上のため、一元化することとしました。味、栄養価ともに均一な3食をきちんと提供することで、生活のリズムを整えてもらいたいと考えています。

現在、各施設の賄いさんに混じって地域移行支援事業でアパートへの入居をされた方たちが力をあわせて、6ヶ所の宿泊所および自立援助ホーム(朝昼夕)およびいは商店街中ほどで行っているリビングサービスの利用者さん(昼のみ)へ、毎日合計約600食の調理および配達を行っています。また、時々数を間違えることもあります。味は上々、利用者さんたちの評判もすこぶるよいようです。日々、利用者さんの声などを取り入れて、メニューの工夫にも燃えているメンバーたちです。

(企画営業部 成清正信 事務局聞き取り)

3.中越豪雪災害支援活動

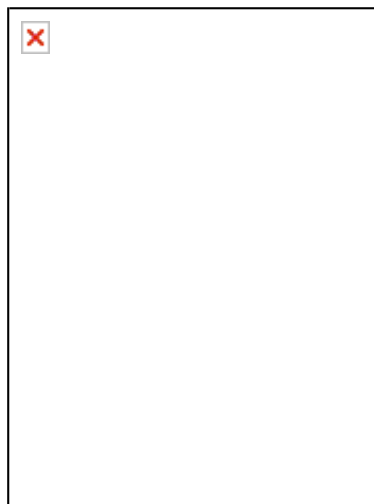
2004年に新潟中越大地震があり、現在では大雪の被害に遭っている新潟県山寺地区の除雪作業に参加しました。東京災害ボランティアネットワークが被災地のニーズを調査し、ボランティアを募って高齢者宅などの除雪作業のお手伝いをするという仕組みです。ふるさとの会から、スタッフ2名とホームレス地域生活移行支援事業を利用してアパートに入居された方5名とで参加しました。

自然災害が発生した際にどのように地域と地域が支えあうのかという大きなテーマについて考えさせられました。除雪作業は地元の方々にとって当然切実な問題でありますし、「作業員」として応援に来ていることに対しては、大きな感謝をいただいています。しかし、より大切なのは、「除雪作業」を通じて地元の皆さんと会う中で私たちが何を感じて何を伝えたいかということです。地元の方々からすると、「助けに来てもらっている」という気持ちが強いのかもかもしれません。場合によっては作業員の人数から賃金計算をしてしまって「申し訳ないなあ」と思う方もいるようです。

自然災害のような場合、地域と地域が日頃から協力して来るべき事態に備えなければなりません。「助けられる側と助ける側」という壁を乗り越えたところでの取り組みが必要です。私たちが日頃取り組んでいるホームレス問題と何か似たところがあると強く感じているところです。

今回、アパート生活を最近スタートさせた5名の方々と2日間の作業を共にしました。年齢は、下は48歳から上は69歳という構成でした。最年長のYさんは、「昔はしょっちゅう山寺地区に働きに来たよ。随分町並みも変わっちゃったよ。」と懐かしそうにしていました。山寺に来ると昔を思い出すのか「また誘って欲しい」とうれしそうに繰り返していました。他のボランティアの皆さんも「よく働くねー」と声をかけていました。

(地域生活移行支援事業担当 石神朋敏)



4.社会サービスのあり方に関する懇談会開催のご報告

■ CUCS 地域のケアシステムー包括的支援の体系

2005年の年の瀬も押し詰まる12月22日、ふるさとの会本部3階にて「社会サービスのあり方に関する懇談会」という催しを開きました。これはふるさとの会にとっても新しい試みですが、もしかすると、「超高齢化社会」とか「格差社会」とかという言葉が触れようとしている社会的な諸問題にとって、画期をなす出来事になるかもしれません！

と、いきなり大見得を切ってしまいましたが、背景から少し説明をしておきます。昨年10月から新しい自立援助ホーム「ふるさとホテル三晃」をオープンし、また6月に東駒形荘を開設、全8施設で常時200名超の利用者

を受け入れることになりました。一年で支援規模が倍になったわけです。宿泊所にしても自立援助ホームにしても、土台になるのは生活支援ですが、利用者たちは様々な疾病や障害を持っていますから、医療や介護などの専門サービスを導入することも欠かせません。その数、宿泊所だけで年間23,835件(2004年度実績)、自立援助ホームを加えると366,611件になると予測しています。

しかし利用者の急増はサービスを提供する方にとっても大変なことです。クリニックは往診の時間のやりくりがキビシクなるし、介護の面ではケアマネやヘルパーの不足が明らかになりました。施設ごとにいままでと同じところと連携するだけではもう立ちゆきません。

必要なサービスを、必要なときに必要なだけ提供するためのシステムをいかにして開発するか。当日はサービスを導入する側と提供する側、行政、学者さんたち、13の所属から25名が出席しました。考えてみれば、さまざまな人たちと連携してきたのに、一堂に会するのはこれがはじめてであり、集まってくれただけで、これだけ多くのところと連携しているのだな、と改めて実感しました。具体的な話はまだこれからですが、社会サービスの供給体制について問題関心を共有できたのなら、まずは記念すべき第一歩と言えるでしょう。これから2～3ヶ月にいちど懇談会を継続し、少しずつ輪郭を描いていきたいと思えます。

(企画営業部 滝脇 憲)

日 時 2005年12月22日(木)午後7時～

場 所 東京都台東区千束4-39-6 ふるさとの会本部3階

参加団体 在宅診療／掘切中央病院・亀戸中央通りクリニック、病院・無料定額診療所／浅草寺病院・山友クリニック、在宅診療／川崎メンタルクリニック、訪問歯科／入谷歯科・デンタルサポート(株)西葛西エリア、薬局／コスモ薬局亀戸店・ちとせ薬局、訪問介護／NPO法人コスモス、訪問介護事業所／ヘルパーステーションふるさと、行政機関／東京都福祉保健局生活福祉部保護課、学識経験者／国立保健医療学院・日本福祉教育専門学校、施設事業を行うNPO法人／友愛会・ふるさとの会

-----以下招請文

2005年12月6日

特定非営利活動法人 自立支援センターふるさとの会
代表理事 水田 恵

拝啓 時下、ますますご清栄のこととお喜び申し上げます。また平素より、ふるさとの会の事業にご協力いただき、ありがとうございます。

さて、ふるさとの会では本年10月より「ふるさとホテル三晃」の運営を開始いたしました。これにより、ふるさとの会の施設関連事業は、常時約200名の利用者を受け入れることになりました。地域生活を支援している約250名の利用者を含めると、450名の支援規模になります。

これらの事業は、貴団体をはじめ、専門的社会サービスを提供して頂くことではじめて成り立ちます。しかしながら、利用者が急速に拡大するなかで、従来のような各現場との個別連携というかたちでは、即応的に無理なお願いをすることが増えているかと思えます。

新聞などでも報じられているように、現代社会は生活保護受給者増や単身世帯化が進んでおり、私たちの活動や専門的社会サービスのニーズはますます増大の傾向にあると考えられます。この事態に対応するには、施設事業者と専門的社会サービスを提供する団体、そして行政関係者が、これまでの協力関係を整理しながら、より豊かなものにしていく必要があると切に感じております。

つきましては、まず現状でサービスを必要としている人たちがどの程度いるかをご報告するとともに、各関係機関がそれぞれの能力を活かしあうために何ができるか、そして利用者の福祉の向上のために、これからのサービス提供のシステムはどうあるべきかを話し合いたいと思ひ、下記のとおり懇談会を企画いたしました。年の瀬も押し詰まり、なにかとご多用のこととは存じますが、ぜひご出席頂きたくご案内申し上げます。

敬具

記

日 時 2005年12月22日(木)午後7時～

場 所 東京都台東区千束4-39-6 ふるさとの会本部3階

発行元: 特定非営利活動法人 自立支援センターふるさとの会
〒111-0031 東京都台東区千束4-39-6
TEL: 03-3876-8150 FAX: 03-3876-7950